

優秀賞 (y a b 山口朝日放送賞)

光市認知症を支える会(福寿草の会光)

代表者 山下 悦子 (福祉分野/光市)

活動の動機・目的

認知症の人の介護はほとんどの人が手探りの状態。一人で抱え込むと身心ともに疲労困憊し、介護者自身の健康をも損なう。認知症の人と家族がそうならないように、介護方法を学んだり、家族間の交流を深めて助け合う家族会として発足。

認知症の人の福祉対策及び精神保健対策の充実を図るとともに、認知症の啓発活動を行い、認知症になっても安心して暮らせるまち“光市”を目指している。

活動の内容

①毎月1回例会開催(第1木曜日)。

介護者の悩み相談・情報交換を中心にした話し合いや認知症についての勉強会・体操・映画鑑賞・音楽療法・お手玉などを取り入れて身心の疲れを解放する。

②電話相談・・・9月アルツハイマーの日前後の1日、会員が認知症の相談を受ける。

③施設見学(近隣の介護施設、保健施設等)、リフレッシュ事業(温泉旅行、食事会等)。(各年1回)

④認知症サポーター養成講座を市内各地で開催(年5回)。

小・中学校教員人権研修会(夏休み実施)と浅江中学校に講師として出向く。

⑤総会を開催し、会報“えがお”を発行(年1回)。

⑥10周年記念映画上映会開催。

「わたし」の人生～我が命のタンゴ～(光市民ホール平成25年11月)。7月から準備を進め、介護施設、老人会、公民館関係民生児童委員会等に働きかけて、協力頂き、約700名が来場された。

⑦「おれんじカフェ“えがお”」のオープン(山口県初 平成26年6月)。

毎月第3土曜日(10時～15時)に定例開催。日々の生活の延長として捉えられるように光市虹ヶ浜の民家を借り受け、地域住民にも開放。認知症の人と地域の人が将棋を指したり、トランプをしたり、カラオケやタブレット端末(ipad)を使ってゲームを楽しんだり、おしゃべりをして自由に過ごす。光高校、聖光高校のJRC部の生徒も、手作りしたお菓子を持って協力して下さる。会員以外の家族の方も専門職を交えて相談を受けることができ、必要に応じて関係機関との連携をとっている。

⑧浅江中学校「認知症の人への声掛け訓練」(平成26年9月 午後2時間半)実施。

認知症を正しく理解し、温かく声掛けをする訓練。近所の認知症の人が道がわからなくなり、中学校に迷い込まれたという設定で、グループに分かれて校内を捜し、一人ひとり声掛けの訓練をした。

これからめざしたいこと

○「おれんじカフェ“えがお”」において、タブレット端末を使って認知症一次、二次予防の為のプログラム作りや物忘れ相談プログラムを使って早期発見・早期診断に繋いでいく方法を考えていく。

○浅江中学校「認知症の人への声掛け訓練」が訓練だけで終わるのではなく、地域での実践や交流に繋がる方向を考えていく。具体的には「あさなえ認知症見守りネットワーク」を作り機能させていき、その実現に向けて浅江地区コミュニティ協議会、民生児童委員、介護施設、浅江中学校、家族会が連携して実行委員会が作られ基盤ができた。これから内容を深めていく。



研修会
「認知症の理解」



“おれんじカフェ
えがお”で
楽しく歌おう